



# 袋井市 産業振興 計画

越境マインドによる  
新たな挑戦

2026 ▶▶▶ 2030

— 概要版 —



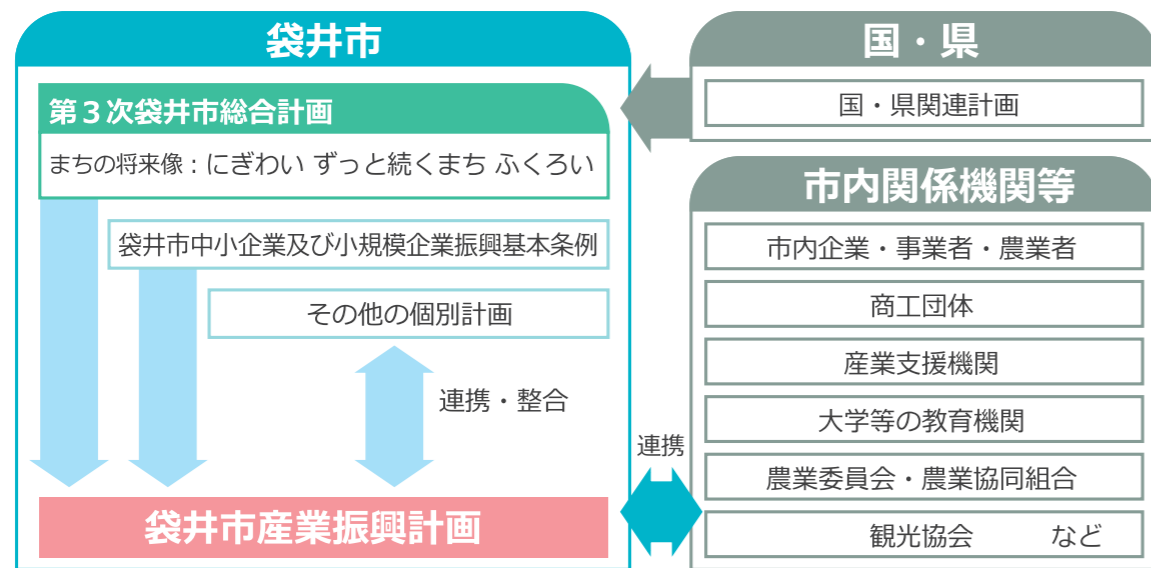
# 袋井市産業振興計画について

## 産業振興計画とは？

本市の産業が目指す将来像と各産業分野における目標や取組の方向性を明らかにし、多様なつながりのもとで、頑張る企業・事業者等の新たなチャレンジを創出し、応援していくことで、一丸となって地域産業・地域経済の振興を目指すものです。

## 本計画の位置づけ

本計画は、市の最上位計画である「第3次袋井市総合計画」がまちの将来像として掲げる「にぎわい ずっと続くまち ふくろい」の実現に向けた産業分野の個別計画として策定するものであり、「袋井市中小企業及び小規模企業振興基本条例」をはじめとして、その他の関連計画との整合を図りつつ、定めるものです。



## 計画期間

2026（令和8）年度から2030（令和12）年度までの5年間

## 社会の潮流

### ▶ 危機的な人口減少と少子高齢化

人口減少局面の本格化に伴う社会経済のパラダイムシフトへの対応

### ▶ 不透明な海外情勢とコストプッシュ型インフレ

賃上げを上回る物価高騰や金利のある世界の到来

### ▶ 第四次・第五次産業革命への対応

急速に進化するデジタル技術による産業構造の変革

### ▶ 多様性を増す価値観やライフスタイル

多様な人材の能力を最大限活かした価値創造

### ▶ 拡大を続ける外国人材の雇用

成長戦略としての外国人雇用と地域との共生

### ▶ 訪日外国人旅行者の増加

2025年には史上初めて年間4,000万人を突破

### ▶ 環境の持続可能性に対する懸念と対応

カーボンニュートラルに向けたサプライチェーン全体での脱炭素経営とGX

### ▶ 地方創生への対応

「強い経済」の実現に力点を置いた「地域未来戦略」(2026年夏頃策定予定)

## ～ 越境マインドによる新たな挑戦の創出 ～

## 袋井市の産業の特性と課題

(袋井市に立地する上での長所)

- ①交通の利便性の高さ / ②バランスの良い産業構造 / ③事業に対する理解の高さ

(袋井市に立地する上での課題)

- ①人材確保のしにくさ / ②地域が主要な市場でない / ③宿泊施設が少ない

(事業者が抱える課題)

- ①人材の確保(事業承継・技術承継を含む) / ②顧客の維持・拡大 / ③生産性の向上

(袋井市に求められる取組)

- 【全体】 分野を越えた連携、新たなつながりづくり
- 【工業】 人材の確保及び育成、新たな投資への支援、経営基盤の強化
- 【商業】 人材の確保及び育成、融資制度、経営基盤の強化
- 【観光】 ツアーに対する補助金、最新の観光情報、地元ガイドや案内サービス
- 【農業】 担い手の育成、売れる農作物づくり、農地の適正利用

## 将来像（目指すべき姿）

## 「チャレンジが にぎわいと稼ぐチカラを育む まち」

『第3次袋井市総合計画』で目指す【にぎわい ずっと続くまち ふくろい】の実現にあたっては、市民の安定した生活を支える仕事の充実が不可欠であり、地域の稼ぐチカラの向上が重要です。そして、人口が減少していく社会に転じた現在において、稼ぐチカラの向上を目指すためには、従来の枠組みに捉われないチャレンジが重要であるとともに、仲間と共に壁を乗り越え、喜びを分かち合うことは、暮らしの充実と地域のにぎわいをもたらします。

こうした、チャレンジが地域のにぎわいと稼ぐチカラの向上を生み出し、新たなチャレンジを引き出す好循環の創出を目指して、将来像を「チャレンジが にぎわいと稼ぐチカラを育む まち」と定めます。

## 計画の進捗管理

本計画は、総合計画に基づく個別計画であることから、PDCAサイクルによる総合計画の評価（政策評価）による進捗管理を基本とします。

しかしながら、技術の進歩や市場のトレンドなど常に変化し続ける経済・産業分野において、具体的な取組に係る進捗管理の方法として必ずしも十分とはいえないことから、特に個別具体的な取組内容の精査にあたっては、アジャイル手法やOODA（ウーダ）ループ手法を取り入れていきます。

▶アジャイル手法は、システム開発などに用いられる手法で、実装とテストを繰り返して開発していくというもので、常に政策効果を確認しつつ、現状を踏まえて課題を分析し、改善につなげていきます。

▶OODA ループ手法は、Observe( 観察 )→Orient( 判断 )→Decide( 意思決定 )→Action( 行動 )の4つのステップを短いサイクルで繰り返すことで、適宜見直しを行いながらリソースを効率的に使い、効果の最大化を図るものです。



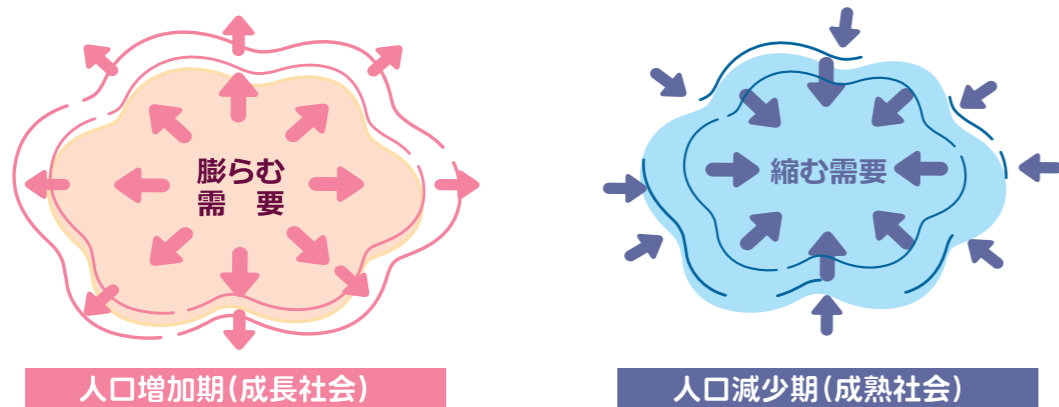
# 計画の推進にあたって～分野横断の取組推進～

## < 分野間連携の必要性 >

本市においては、これまで「工業振興計画」、「農業振興ビジョン」及び「観光基本計画」をそれぞれ策定し、分野ごとの政策推進を柱として、地域産業の振興を目指してきたところであり、こうした取組の成果は、製造品出荷額等の堅調な推移など、私たちの安定した生活を支える仕事の充実として表れ、ひいては、我が国の人口が2008(平成20)年に減少に転じた後も、2022(令和4)年まで続いた人口増加局面を支える要因の一つとなっていたと考えています。

しかしながら、本市においても人口減少局面に転じるなど、人口減少の本格化が急速に進む中で、私たちの社会は、人口増加局面で量的拡大を追求する成長社会から、精神的な豊かさや生活の質、価値の向上に重きを置く成熟社会へと移行しています。

こうした中で、経済・産業分野においても、担い手不足や高齢化への対応に加え、供給が需要に合わせる必要性や新たな顧客の獲得の必要性など、従来とは全く異なる新たな課題に直面しており、成長に向けた新たな伸びしろが求められています。

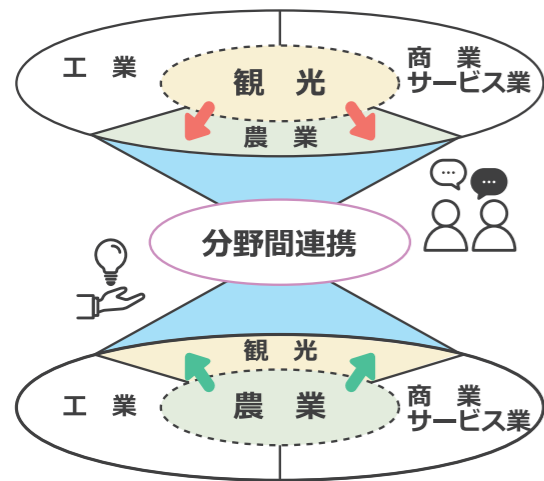


成長社会においては、人口の拡大に応じて、産業分野ごとにおいても“伸びしろ(成長余地)”が十分にある一方で、成熟社会に移行した現在においては、産業分野ごとまたは従来の成長戦略では十分な“伸びしろ”が期待できないことから、**新しい価値の提供(イノベーションの創出)**や**新たな顧客(需要)の獲得**が重要であるほか、本市においても、限られた経営資源の中で、こうした社会の変化に対応していくことが求められています。

こうした中で、新たな課題を乗り越え、**次なるステージへ突破**していくためのカギとなるのが、“越境マインド”のもとでの分野間連携です。

(参考:越境マインドにおける“越境”とは)

経済産業省『越境学習をイノベーション創出につなげるために(2025年3月)』における越境学習の定義のように、所属組織の枠を越え、新たな環境で学ぶ(越境先の業務に携わる)ことで、「イノベーションの創出を担う人材の育成」にとどまらず、「イノベーションを創出する組織への変革」につながる取組を意味します。



### 越境マインドによる分野間連携の効果

- ▶ お互いのネットワークを含めた連携により、イノベーションの創出が促される
- ▶ お互いの顧客の共有による新規需要の獲得が期待される
- ▶ 担当分野に捉われない検討・アプローチにより人的資源の共有が可能

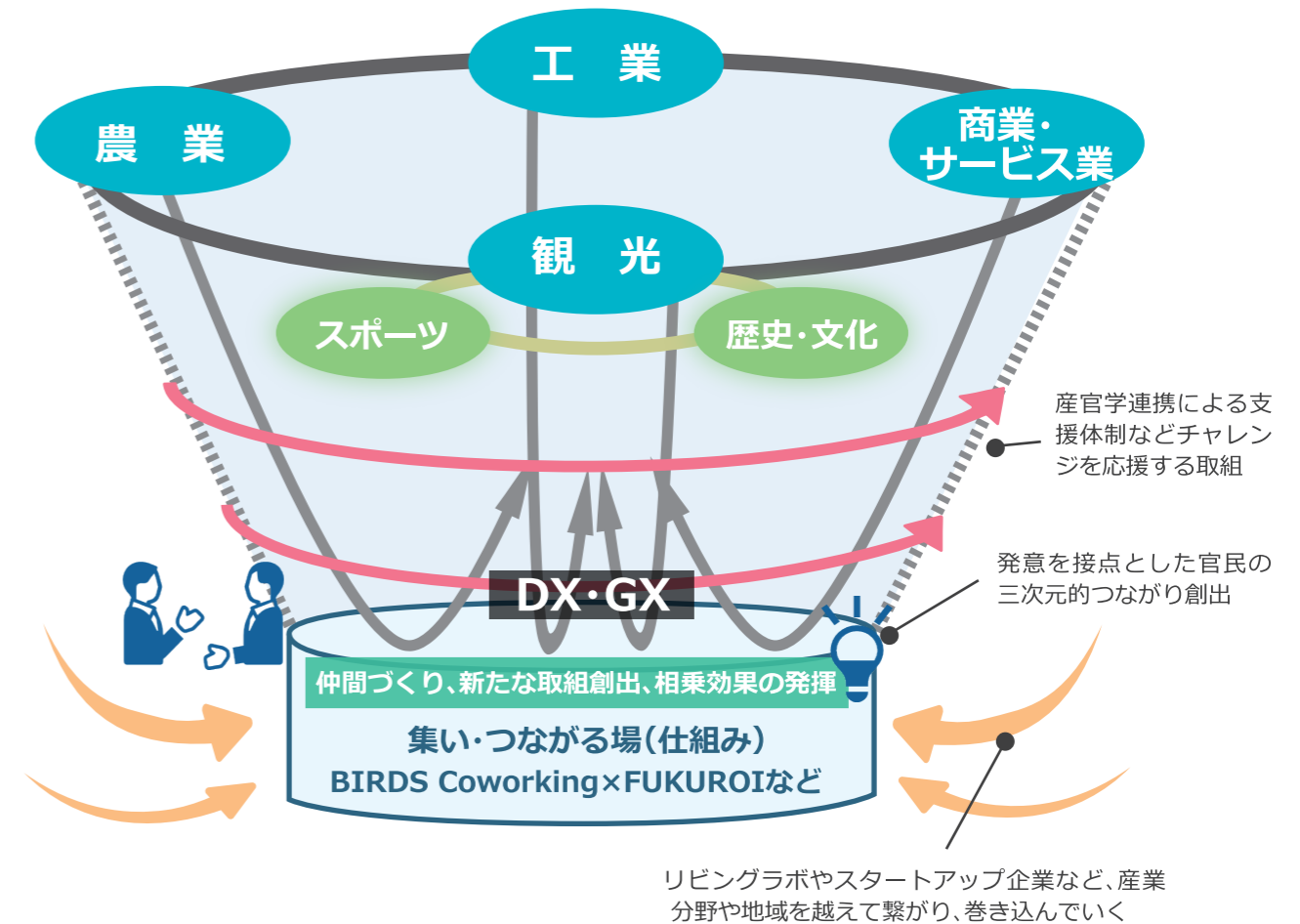
限られた経営資源の中でも、より効果的かつ効率的な政策形成、政策執行により、イノベーションの創出や新たな需要獲得が可能になる

## < 分野間連携の推進 ～越境マインドと3次元連携～ >

分野間の連携の推進にあたっては、行政において、関係するテーマについて越境マインドをもって自分事として捉え、DXやGXなどの手段も用いつつ、積極的な連携を創出していくことに加え、“BIRDS Coworking × FUKUROI”などを活用し、ビジネスの担い手となる事業者等の発意を接点とした、三次元的な連携推進により、産業支援機関などを含め、地域一丸となって、新たなチャレンジを創出し、応援していきます。

そのため、企業・事業者等への積極的な訪問により、それぞれの事業の応援にとどまることなく、新たなつながりづくり(ネットワーキング)に注力していきます。

### ■ 分野間の連携イメージ



## < 分野横断の取組推進のための3つの行動指針 >

各産業分野における共通課題でもある以下の3つの視点は、分野間連携の取組推進によるイノベーションの創出や新たな顧客獲得などにより、就労希望者や消費者・顧客から“選ばれる”地域産業づくりの推進にあたって、いずれの産業分野においても意識すべきものであることから、分野横断の取組推進のための「3つの行動指針」として定めます。

### 3つの行動指針

- ① 人材確保・人材育成の視点
- ② 新たな価値創出の視点
- ③ DX・GXによる生産性・効率性向上の視点

## 分野別の目標と施策体系について

産業振興計画として目指すべき将来像に加え、各産業分野別の目標と政策の関係がわかるよう、次のとおり体系化します。

### 将来像（目指すべき姿）

# 「チャレンジが にぎわいと稼ぐチカラを育む まち」

## Key Goal Indicator 重要目標達成指標

本計画の達成に向けて、各産業分野共通の目標として、次のとおり KGI を設定し、目標管理を行います。なお、KGI を達成するための中間目標としての KPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）については、計画書（本編）をご確認ください。

市内GDP(総生産)	基準値 551,698百万円(2022年度)以上
市民一人あたり所得	3,729千円以上(基準値3,448千円(2022年度))

工業分野

## 目標 地域経済を牽引する力強いものづくり産業

### 政策1 地域を支える経営基盤の強化

- ①未来につながる経営基盤の安定化と事業承継の推進
- ②次代を担う人材への魅力発信と就職促進
- ③誰もが働きやすく働きがいのある環境づくり

### 政策2 環境の変化に対応できる強い工業に向けた展開の推進

- ①夢や想いを実現する創業・起業支援
- ②時流や変化を捉えた競争力や成長力の強化
- ③産学官金連携によるイノベーションの創出
- ④広域連携による販路拡大支援

### 政策3 戦略的な企業誘致

- ①新たな企業の誘致と多様な連携強化
- ②企業立地制度等の充実
- ③企業用地開発の推進



観光分野

## 目標 地域をつむぎ魅力を高めるシン・観光

### 政策1 持続可能な観光振興基盤の強化

- ①まちの象徴となる観光コンテンツの推進
- ②プロモーションの推進
- ③広域連携した観光の推進
- ④観光協会等との連携強化

### 政策2 袋井(地域)ブランドの磨き上げ

- ①トレンドを踏まえた新たな観光商品・企画の開発
- ②新技術の活用
- ③新たな観光資源の発掘
- ④観光人材・市民参画の推進

### 政策3 交流人口の拡大と域内消費の活性化

- ①消費を促す観光環境の形成
- ②地域イベント等との連携強化
- ③受入体制の充実
- ④観光マネジメントの高度化



商業・サービス業分野

## 目標 個性輝く高付加価値型 商業・サービス業

### 政策1 暮らしの豊かさを支える経営力の強化

- ①経営支援の充実
- ②多様化する新たな商形態への対応

### 政策2 魅力ある商業・サービス業の創業支援

- ①創業・新規事業支援の充実
- ②分野を越えた連携創出
- ③ネットワーク構築支援

### 政策3 人を呼び込む商業・サービス基盤の創造

- ①にぎわいと回遊性の向上
- ②まちと連動した商業・サービス業の立地促進
- ③地域資源を活かした商業振興
- ④エコイベント来訪者等の魅力ある店舗への回遊促進



農業分野

## 目標 豊かな食と暮らしを創るふくろい農業

### 政策1 経営力の高い農業の推進と誘致

- ①新規就農・事業承継支援
- ②農業関連企業等の誘致の促進
- ③安全・安心を確保する生産体制の確立
- ④スマート農業による生産性の向上

### 政策2 農産物の高付加価値化と販路拡大

- ①異業種との連携強化
- ②ブランド力の強化
- ③新たな販売チャネル等の開拓
- ④販路の拡大
- ⑤環境に配慮した農業の推進

### 政策3 “農”のあるまちづくりの推進

- ①農業体験
- ②地場農産物の活用
- ③グリーン・ツーリズムの展開
- ④魅力的な地域景観形成

### 政策4 農地基盤整備と多面的機能の維持

- ①荒廃農地の発生防止と再生利用
- ②農地の利用集積・集約
- ③農業生産基盤の適正管理
- ④多面的機能の維持・発揮





# 袋井市産業振興計画

— 概要版 —

越境マインドによる新たな挑戦

企画・政策／袋井市 産業部 産業未来課  
〒437-8666 静岡県袋井市新屋1丁目1番地の1  
TEL:0538-44-3136 FAX:0538-44-3179

発行年月:2026年3月